

古墳時代

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



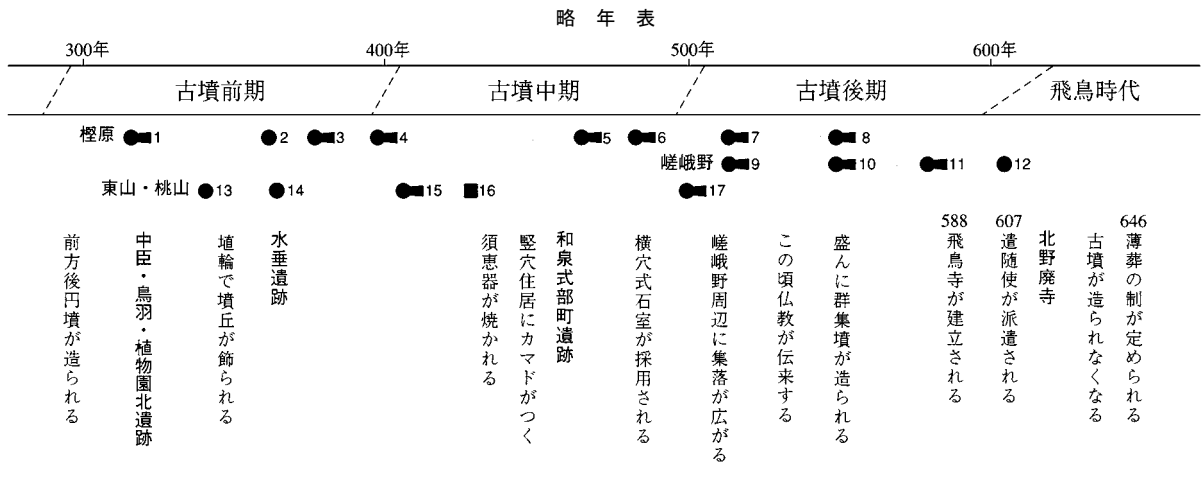
写真1 天皇の杜古墳 整備され史跡公園となっている。4世紀末。



写真2 大枝山22号墳 谷間に築かれた群集墳。6世紀末。

前方後円墳に象徴される数多くの古墳が各地に築かれた時代を古墳時代と呼びます。京都市内にはこの間に、600基をこえる古墳が築られました。このうち、前方後円墳や大型の円墳は、大規模な墳丘や堅固な埋葬施設、また多様な副葬品をもつことなどから、首長の権威を誇示するために造られた首長墓と考えられます。これら首長墓は、地域ごとに築かれ、略年表のように変遷したことがわかっています。首長墓は数の上では一握りに過ぎず、多くは後期に盛んに造られた群集墳が占めています。

前期から中期に築かれた古墳には、多くの場合、前方後円墳という墳形が採用されました。埋葬施設にはたてあなしきせつかく堅穴式石槨が設けられ、銅鏡や鉄製の刀剣など、首長権の象徴ともいべき多様な副葬品が納められました。西京区の天皇の杜古墳(写真1)はその代表例とい



※古墳番号は遺跡位置図の番号と同じ

えるでしょう。また、墳丘の上には円筒埴輪をはじめとして、人物（写真3）や家などを象った埴輪が並べられました。

中期の終わり頃、埋葬施設として、新たに横穴式石室が採用されます。この横穴式石室の採用によって追葬が可能になり、古墳は家族の墓としても利用されるようになりました。このことが、後期になって嵯峨野や松尾、岩倉など盆地周辺部の丘陵に見られるような、おびただしい数の小型古墳で構成される群集墳（写真2）が造られる背景となります。

集落遺跡は、弥生時代と同じように河川に近い微高地などに竪穴住居を中心として営まれ、米作りを主な生業とし、土器は弥生土器と同じ素焼きの土師器が使われていました。前期の集落には、北区の植物園北遺跡や山科区の中臣遺跡、伏見区の水垂遺跡（写真4）では集落に近接して水田や畑の跡が見つかりました。

中期には、朝鮮半島などから、竪穴住居の屋内にカマドを設ける風習や硬質の須恵器を焼く技術が導入され、煮炊きの仕方やそれまでの土師器の形態も著しく変化し

ます。このころの集落には右京区の和泉式部町遺跡があります。

須恵器は、丘陵の斜面などを削り抜いて造られた窯で、一度にたくさんの製品が焼かれます。当初は、大阪府の陶邑古窯跡群など特定の場所で焼かれていました。京都市内では、このころの窯跡はまだ見つかっていません。

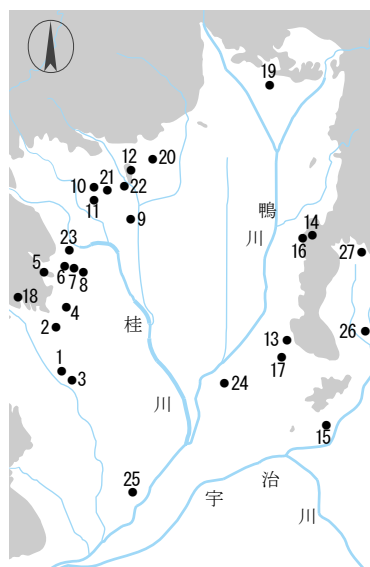
後期には、前述の遺跡のほかに、右京区の花園遺跡や広隆寺旧境内など、とくに嵯峨野周辺に新たな集落が見られます。この地域は、のちに活躍する渡来系の氏族、秦氏の根拠地の一つといわれています。集落内は、竪穴住居を中心とした構成に変わりありませんが、掘立柱建物も増加していきます。西京区の松室遺跡では幅15m以上の大溝が発見されており、灌漑などのための大規模な土木工事も行なわれたようです。また、後期の終わり頃には、須恵器の生産も山科窯跡群などで始められました。

京都市内の各地に群集墳が造られる頃、朝鮮半島から仏教が伝来しました。やがて、京都市内で最古の寺院、北野廃寺が建立される頃になると、古墳は造られなくなります。

（高橋 潔）



写真3 捧げ物を持つ巫女の埴輪
鳥羽遺跡、古墳周溝に転落した状態で出土した。



遺跡位置図 1 寺戸大塚古墳 2 百々池古墳 3 妙見山古墳 4 天皇の杜古墳 5 山田桜谷2号墳 6 穀塚古墳 7 清水塚古墳 8 天鼓の森古墳 9 天塚古墳 10 仲野親王墓古墳 11 蛇塚古墳 12 双ヶ岡一ノ丘古墳 13 稲荷山古墳群 14 將軍塚古墳群 15 黄金塚2号墳 16 八坂古墳 17 番神山古墳 18 大枝山古墳群 19 植物園北遺跡 20 花園遺跡 21 広隆寺旧境内 22 和泉式部町遺跡 23 松室遺跡 24 鳥羽遺跡 25 水垂遺跡 26 中臣遺跡 27 山科窯跡群



写真4 水垂遺跡 竪穴住居からなる集落跡（写真左）と、畦で区画された水田跡（写真右）。